

2020年(令和二年)9月4日(金),5日(土) 臨海生物生産学実習が竹原ステーションで行われ、広島大学 生物生産学部の学生28名が参加しました。



9月4日 生野島でのシュノーケリング、磯・砂浜の生物観察および地引網体験実習。

A: 実習の全体説明風景 (Social distance に気を配り、互いの距離を確保できる実験室で行われました)。 B-D: 小型実習船「からぬす丸」を使用した生野島への移動風景 (密を避けるため3班に別れ乗船しました)。

E: 島での昼食風景。 F: シュノーケリングに関する諸注意を行う近藤助教。 \*野外実習では、熱中症および水難事故防止のためマスクは外して行われました。

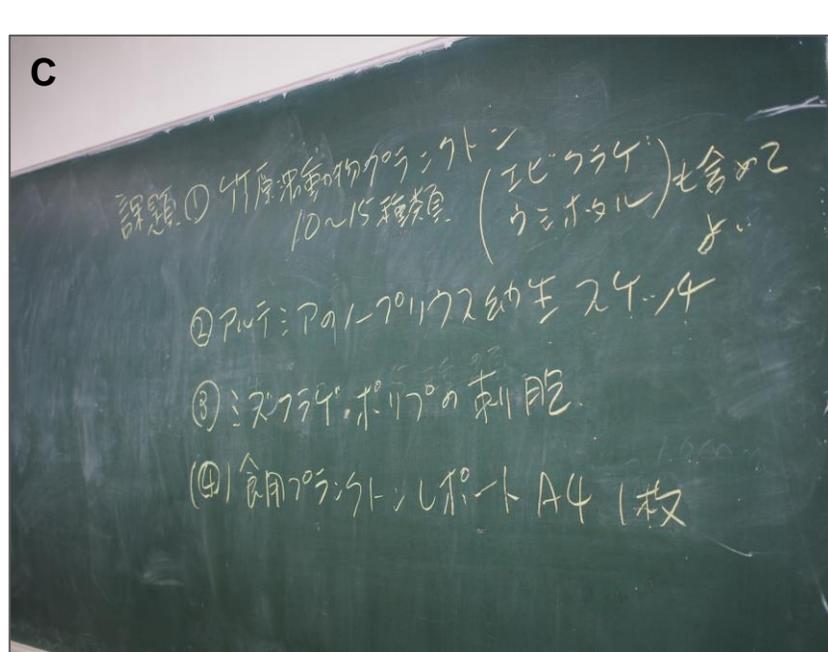


9月4日 生野島でのシュノーケリング、磯・砂浜の生物観察および地引網体験実習 (続き).  
A-F: 近藤助教によるシュノーケリング実習風景.



**9月4日 生野島でのシュノーケリング、磯・砂浜の生物観察および地引網体験実習 (続き).**

**A-D:** 地引網実習風景 (地引網は3班に別れてそれぞれ1回ずつ行なわれました. 終了した班から順次船でステーションに戻りシャワーを浴びました. 本ステーションには男女別それぞれ3室ずつシャワー室が完備されています). **E:** 地引網で採れた瀬戸内海の生物を学生に解説する近藤助教. **F:** 地引網で採集されたキンセンガニ (本種は歩脚が全て鰭状の遊泳脚に変化した瀬戸内海では珍しいカニです).



**9月5日 プランクトン採集とプランクトン観察実習.**

**A:** プランクトンネットを手にもって説明を行う大塚教授. **B:** 講義内容を配布された資料に書き込む学生. **C:** 板書された本実習の課題.

**D:** ミズクラゲのポリプを使用して刺胞が発射される瞬間を学生に説明する大塚教授. **E:** ポリプのプレパラートを作成するTAと学生. **F:** アルテミアの幼生・ミズクラゲの刺胞細胞を観察・スケッチする学生ら.



**9月5日 プランクトン採集とプランクトン観察実習 (続き).**

**A:** 海上でのプランクトン採集を終えて戻ってくる「からぬす丸」. **B-C:** 海上で採集した標本を用いてプレパラートを作成する学生ら.  
**D-E:** プランクトンを観察する学生とそれを補佐するTAら. **E:** 学生に指示を伝えるTA (密を避けるため、換気を十分行い、観察実習は実験室・講義室の2部屋に別れて行われました).



**9月5日 プランクトン採集とプランクトン観察実習(続き).**

**A-C:** 実験室に隣接する講義室でのプランクトン観察風景. **D:** 実健室でのプランクトン観察風景.

**E:** 観察実習終了後に行われた「プランクトンと人とのかわり」についての講義風景. **F:** 講義中、学生の元に配られた水産食品として流通するプランクトン(写真はサクラエビ).

\* 台風10号の接近に伴い、6日(釣法実習)、7日(海藻の出汁抽出、色素実験、組織観察実習)に予定されていた実習は学生の安全を確保するため中止されました。